

神奈川県立岸根高等学校 令和7年度 第1回学校運営協議会 議事録  
・令和7年6月 20日(木)15:50～ 岸根高等学校会議室

・出席者：学校運営協議会委員

(敬称略) 長島 由佳(すこやかサークル会長)、  
太田 早織(神奈川大学人間科学部助教)、  
丹羽 滋子(マーマしのはら保育園園長)、  
奥山 恭子(岸根高等学校 PTA 会長)、久祢田 啓嗣(岸根高等学校学校長)

職員

三上 実(副校長)、森 知都(教頭)、横溝 賢治(事務長)  
久保 裕紀(カリキュラム G 総括)山頭 康太(キャリア支援 G)、  
森 直樹(サポート G リーダー)、加藤 博信(生活支援 G 総括)、  
田口 和忠(地域連携協働 G 総括)、川崎 陽香(学校管理運営 G 総括) ※G = グループ

・欠席者 濱崎 利司(篠原中学校校長)、長谷川 樹生(篠原幼稚園園長)  
三田 敏幸(岸根町内会長)、望月 選(F・マリノススポーツクラブ理事)、  
小澤 孝之(篠原西小学校校長)、

(1) 委員委嘱

(2) 開会

① 校長挨拶

コミュニティ・スクールの特性を活かし、学校運営に参画していただきたい。今日のご意見を学校  
経営の施策に活かしていきたい。

② 会長挨拶

(3) 委員自己紹介

神奈川大学 太田委員  
マーマしのはら保育園 丹羽委員  
本校 PTA 奥山委員  
すこやかサークル 長島委員

(4) 要綱確認

岸根コミュニティ・スクール概要(別紙)

(5) 報告事項

- ① 部会の確認について(別紙)4つの部会紹介  
岸根コミュニティ・スクール概要(別紙)
- ② 令和7年度学校運営協議会年間計画について
- ③ 令和8年度学校評価について 「学校要覧」の記載確認

(6) 協議事項

- ① 令和7年度から4か年の学校教育目標について

- ② 令和7年度学校教育目標について  
校長より  
・令和7年度 岸根高校経営重点方針について(心構え)  
「生徒が主役のフツーの学校」を目指して取り組んでいる。

- ・各グループから概要説明

- 1 カリキュラム G 久保総括教諭より  
・教科横断的な授業という取り組みは今年が初めてである。教員の授業力向上が生徒の学習に役立

てたい。

・よりよい授業を目指し、公開研究授業を計画中である。

## 2 キャリア支援 G 山頭教諭より

- ・外部の教育力の向上の一環として外部講師を呼ぶだけでなく、生徒の学びや気づきを大切にしている。
- ・進路方法の多様化→教員間での情報共有、教員向けの説明会などを通じて最新の情報を学ぶ。昨年度からは一般入試での生徒も増加。行ける大学ではなく、行きたい大学へ。生徒が主体的に自分の進路を考えた結果であると分析。
- ・探究の成果発表会を次年度より実施→探究学習の充実へ

## 3 サポート G 森グループリーダーより

- ・学校行事や部活動を通じた活動を通じて協働する姿勢を学ぶ。分教室の生徒との交流も他者を尊重する気持ちを養うことに寄与している。

## 4 生活支援 G 加藤総括教諭より

- ・生徒の自己肯定感の向上、社会規範意識の醸成。  
生徒指導においては日常の指導、サポートドッグを通じて組織的に生徒の問題を共有している。

## 5 地域連携 G 田口総括教諭より

- ・すこやかサークルなどを通じて地域、異年齢との関わりを通じて、生徒に多くの学びがある。地域との関わりの実感を得ることが今後の課題である。振り返りをして生徒の気づきを促したい。
- ・学校運営協議会でのご意見をこの場だけでなく、教員全体で共有していきたい。

## 6 学校管理運営 G 川崎総括教諭より

- ・教員の働き方改革として環境整備を実施。
- ・防災は徐々に地域との協働を図っている。

### ③ 令和7年度不祥事ゼロプログラム

別紙、HP にも掲載されている9つの課題を意識して進めていきたい

#### (7) 質疑応答・意見交換

・太田委員

経営重点方針は第三者目線でもわかりやすい。好感を持った。

＜生徒指導＞自己肯定感は何かデータなどを取って確認しているのか？

(加藤総括教諭)

- ・サポートドックや各種アンケート結果を見ていると自己肯定感が低いと分析。
- ・コミュニケーション能力の向上を目指し、こころサポート事業を独自に実施。
- ・日本人は欧米の青年と比べると低い。神奈川大学の学生も低い。
- ・自分のできることを可視化できたら、すてきかもしれない。

・丹羽委員

運動部の生徒の熱中症対策は何かしているのか？

保育園実習生が大学を卒業後に保育園に就職した。

新卒の保育者、園児との対話ができない先生が増えてきている。園児、職員とのコミュニケーションがうまくいかない人も多い。高校ではどのようにコミュニケーション能力を向上させているのか？？

(森グループリーダー)

体育館に計測できる装置を購入。気温が高い日は職員全体にアナウンスをすることで、情報共有。グラウンド用ミスト付き扇風機も活用している。

(山頭教諭)

国語の学習指導要領が代わり、話す、聞く、書くという活動の重点化。他教科でもそのような機会が多くなってきている。

・奥山委員

親は叱ることが多くなってしまいがち、学校で褒めてもらうことで自信や励みになっている。  
(加藤総括教諭)

授業では褒めることを大切にしている。みんながお互いを認め合う場面がある。

・長島委員

子どもたちの中でコロナ禍前は接触する喧嘩が多かったが、コロナ後は家庭内の問題や自分自身の問題が増えてきている。コロナの中で人との関わりが難しく、友達との人間関係に悩む子が多い。そういう子どもたちと関わる中で褒めることを大切にしている。子どもたちへの声掛けを通じて、気持ちが前向きに。褒められない子、気づかれない子供がいないように。子どもたちに関わっていく大人の声掛けの重要性。

地域との関わりを実感→具体的にはどのような気づきを促したいかを想定することも大切である。ボランティア活動を通じて、達成感を感じさせられなければ、手伝ってもらった意味がない。少ない時間でも多くの学びや気づきがある。教育活動の中で、子供の達成感を大事にしてもらいたい。

(8) その他(連絡事項)

- ・第2回は11月の予定
- ・公開授業、文化祭は後日案内予定

(9)閉会